

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	キネティック・アート	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.450	△RG	0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

番

研磨剤

比較対照ボール：キネティック

フレアーの幅 インチ

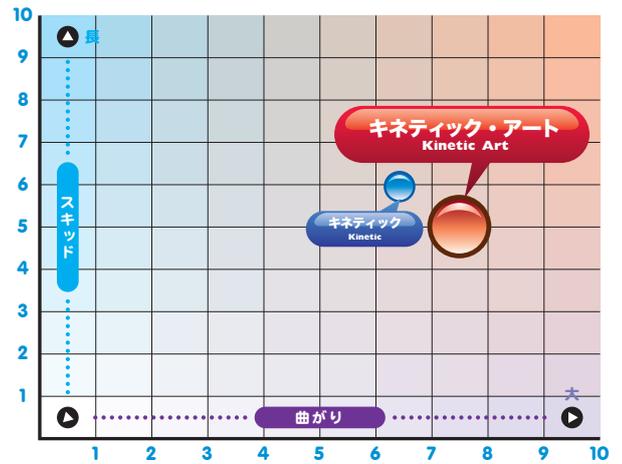
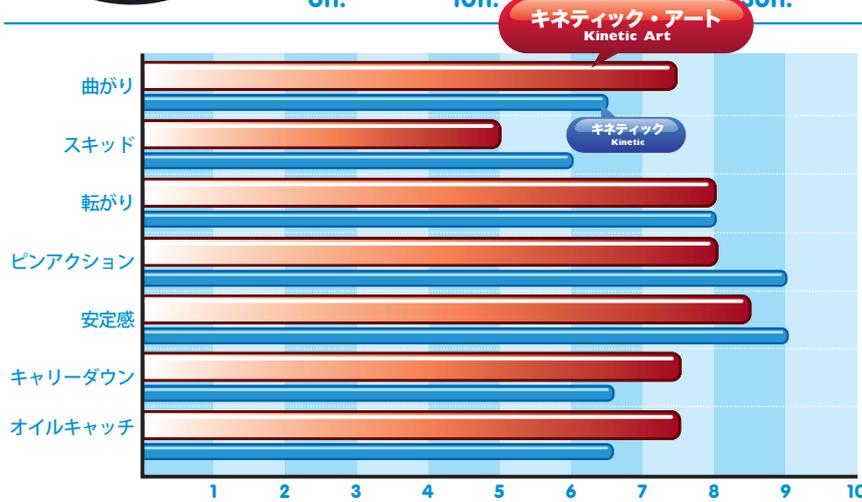
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

番

研磨剤



ボールの評価

昨年8月に発売された初代キネティックは、女性からプロまで数多くのファンに支えられABSでも再入荷を繰り返す大ヒットのボールになりました。そのキネティックの独特なスキッド感・フックからロールに至るまでの安定感は、日進月歩とされているカバーストック現状においても未だに引けを取るものではない性能と言えるでしょう。

その初代キネティックからエナジー・パールへと変革を遂げてきましたが、トラック社がリリースしたカタログボールのそのリアクションは初代キネティックとは異なる角を伴うリアクションでした。我々ABSテスターは初代キネティックのリアクションをそのままにオイルに対しての強さを求め、開発を進めてきました。そして今回ABSから日本限定でこのキネティック・アートを発売するに至りました。

リアクション特性はキネティックの曲がり形状のイメージを変えずに数フィート手前から動き出し、柔らかく切れながらしなやかに最後まで動きを持続することができます。初代キネティックの特徴は何と言ってもフックからロールにかけてのしなやかなリアクション。このリアクションを受け継ぎ、さらにオイルに対しての強さを出しているのがこのアートです。このキネティック・アートの「ART」は、このボールが持つ「芸術」的な曲がりのイメージを称して名付けられました。そのネーミングに恥じる事なく、このキネティック・アートは幅広い層でその良さを感じて頂ける性能と自信を持ってリリース致します。

特記事項

初代キネティックをこよなく愛し、使用して頂いた方。このキネティック・アートでその良さを再確認できる日が再び来たことを実感できるボールです。